

平成26年度 校区外部評価 自己評価表（最終まとめ）

学校名 品川区立東海中学校

【学校評価表の作成および評価に当たっての留意事項】

- 各学校では、それぞれの項目ごとに「本校の基本的な考え方」を記入してください。
各学校で評価指標を設定してください。その際は、各学校の重点的な取組と関連させて評価指標を設定をしてください。なお、必要に応じて行を増やしていただいてもかまいません。
- 校区外部評価委員による外部評価委員会が開催される前に、学校は、自己評価結果（取り組みの状況や変化等）について、必ず説明をしてください。
（校区外部評価委員は、その説明と実際に自分が見た学校の状況等により、評価します。）

【校区外部評価委員の皆様へ】

☆評価をする際には、実際に授業等を見た内容だけでなく、学校が説明した内容、聞き取った内容も十分に参考にしてください。従いまして、評価のために必要と思われる 情報や資料につきましては、遠慮なく学校に御請求くださいますようお願いいたします。

評価項目1 基礎学力の定着

本校の基本的な考え方 <small>(特に身に付けさせたい力、 重点的な実践内容など)</small>	(1)本校の基礎学力に関する基本的なとらえ方 本年度、東海グループでは、義務教育終了時の目指す生徒像を「自信をもち、将来像を語れる子」と定め、小中でこのような子に育てていこうという教育指針を打ち出しました。この指針に基づき、生徒一人一人に身につけさせたい学力を「社会の中で自立して生きていくために必要な力」と捉え、「論理的に考える力を基盤とした学力の育成」を指導の重点の一つとして、各教科・領域での学習指導を進めてまいります。			
	(2)そのための今年度の基本方針 ①学習規律を確立させ、学ぶ基礎をつくります。 ②「意欲」「興味」「関心」の高揚を図り、自ら学ぶ姿勢を築かせていきます。 ③図表写真、実物などを活用するとともに、体験的に学ぶ教材や題材を準備し、授業の工夫改善します。 ④全教科で「論理的思考力」を育成する単元を設定し、重点的に取り組んでいきます。 ⑤意識的に日常生活と教科学習をリンクさせ、理解の深化を図っていきます。 ⑥個に応じた指導を充実させながら基礎基本の定着を図ります。 ⑦理解の早い生徒の力を発展的に伸ばしていく工夫をします。 ⑧衝撃の導入、劇的な展開、納得の終結を指導案にもりこみ、魅力的な授業を試みます。			

評価指標 (成果指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明
① 生徒は、学習の心構えができてきている。(雰囲気・準備など)	B	・落ち着いてきたが、意欲に欠ける。 ・机の整頓、ゴミ拾いなどして、授業前に気づかせている。	落ち着いた雰囲気の中で授業が進行できてきた。	授業規律の確立のため、全教員による共通の取組(チャイムが鳴ると同時に授業を開始する)を実践している。	26年度に引き続き、27年度も重点週間を適切に定め、教師の共通実践を強化していく。家庭に協力を依頼する。
② 授業中生徒は、教員や生徒と適切な言動、態度でやりとりしている。(単語や挙手だけの応答になっていないか)	B	・授業妨害など減少した。	特に8年生が目に見えて授業規律が良くなった。	なかなか指導が行き届かない生徒もいるので個別指導を繰り返し実施している。	さらに教師の意欲を高める。
③ 図表等教材、題材を有効活用し効果的な学習が展開している。	B	・実物拡大器の有効利用をした。 ・図表を読み取る力を意識し、教材を作成した。	小中の教員が指導内容の実際のつながり、具体的な指導方法を協議し、実践を深めている。	教材の提示の仕方、資料の活用の仕方、ノート指導、板書(色や図式)の工夫など丁寧な指導ができるように努めている。	ICTの活用を促す。
④ 単元の漢字テストで各回とも80%の正答を達成させる。	B	・前向きであるが70%の達成した。遅れている生徒の指導が課題である。	単元の漢字テストで70%の達成が見られている。達成できなかった生徒の個別指導の徹底、繰り返し指導をしてほしい。	再テストを繰り返し実施することにより80%以上の正答を達成させている。	継続していく。
⑤ 学級は授業規律が整っている。	A	・全教員で取り組んでいるが、成果が出ている。	全教員に意識が高まり、始業前に教室に向く、始業と同時に授業が開始できる体制がとれている。	学校長が保護者への文書、全体集会等の機会を利用するなどして学校全体で共通実践しやすいように取り組んでいるので、指導の効果が現われている。	6月、2月の実践を継続して行い、授業規律の確立を図った。
⑥ 授業規律を確立するために、教師は必要に応じて適切に、個別指導、集団指導をしている。	B	・音楽では主体的に取り組ませている。継続したい。細かなやりとりをして共通理解・共通実践している。	ほぼ全生徒がチャイム着席、チャイムが始業ができるようになった。	授業規律の確立に向けた学校全体での共通実践が具体的に示されているので、教師は指導が実施しやすい。	チャイムで始まる授業、教師の話を聞かせる指導、居眠りをさせない、忘れ物としないなどの教科指導を共通実践を継続する。

自己評A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目2 社会性・人間性の育成

評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明
① 各学年は、市民科の授業を計画的に実施している。	B	・道徳的内容について、計画的に行っていききたい。	それぞれの行事における目的が明確になっている。	昨年度に比較して、各学年とも計画通りに進行するようになってきた。	1年間の具体的計画を学年ごとに立案し、校長が確認し、教師の意識を高める。
② 教師は、あいさつや礼儀、時と場に応じた態度行動、礼儀、言葉遣いを適切に指導している。	B	・授業前に指導している。 ・活動の場面を的確にとらえ指導しているが、あいさつは生徒の意識が薄くなったとなった。	生徒同士の言葉遣いは以前より良くなってきたように思われるが、まだ十分ではない。	時と場に応じた態度礼儀を実践できるように、東海グループの小学校とも連携して指導の定着を推進している。	あいさつ運動の指導方法については、生徒が日頃から実践できるように検討していく。
③ 生徒は市民科で学んだことをもとに適切な行動や活動をやろうとしている。	A	・ボランティアなど実践力がついた。	市民科で学んだことがボランティア活動を通して、時と場に応じた態度、行動、礼儀、言葉遣いが適切にとれるようになってきた。	地域行事のホフファイアの参加人数が増加している。地域に貢献していくという意識をさらに向上させていきたい。	市民科の計画や指導内容を改めて計画的に実践させる。
④ 教師は生徒の心に迫る指導をしている	A	・音楽祭、学級の時間等の場面で実践されている。	本年の音楽祭での校長の話が生徒によく伝わったようである。校長自ら教職員に心に迫る指導の範を示した。	学級活動や特別活動を教員が生徒と共に活動する中で、生徒の心に迫る指導を実施し、お互いの信頼関係を深めている。	教師も時と場をわきまえた服装言動をもって範を示していく。
⑤ 「思いやりの心」「うそをつかない心」「骨身惜しまず活動する心」が生徒に理解されている。	B	・物が壊れたときなど正直に名乗り出ない。 ・行事、委員会、係り活動等よく活動する。	物が破損したときに自ら名乗りでないという件に関しては、根気強く指導してほしい。	物が壊れたときに名乗り出る生徒とそうでない生徒がいるなど、個人差に留意して指導を手厚くしていく。	教師の気づきの感覚を研修で高める。

自己評A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目3 小中一貫教育の推進

本校の基本的な考え方 <small>(重点的な取組内容など)</small>	カリキュラムマネジメントモデル校として実践をしながら小中一貫の教育活動の効果を高めていく					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
評価		評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明	
① 教師は、小中一貫教育の意義を十分踏まえた指導をしている。	B	教科連携で小中の教員の結びつきが強くなっている	カリキュラムマネジメントモデル校の取組を通して、小中間の相互理解が進み、共通の課題を連携して解決していかうという機運が高まり、教員の小中連携に対する意識が各段と高まった。	3年間のカリキュラムマネジメントモデル校の取組を通して、小中一貫教育の意義が深まった。	教科指導の連携を継続する。	
② 7年生の指導に小中連携指導が活かしている。	B	生活指導について、一部は効果的だが、情報不足もある。	小中の交流(中学校の部活動体験、卒業式の見学等)を通して、中学入学時の6年生児童の不安感を軽減することができた。	小学校との連携をより深め、小中での連結した円滑な指導に努めていく。	実践を通じて伝える。児童会生徒会の交流など。	
③ 学校は、保護者・地域に、小中一貫教育のよさを理解してもらおう努力をしている。	A	行事や活動をよく見てもらっている。	教科間の連携が多くなり、小中教員の結びつきが強くなった。外部評価委員から中学校は大変努力しているという意見も出された。	学校便りなどで小学校との取組を保護者・地域に伝えている。	豊かな心の醸成、学力の向上など成果を伝える工夫をする。	
④ 小中の教師が相互に交流し、意思の疎通が円滑にできるようになっている。	B	・十分な時間がない。 ・機能的な組織体制を模索中である。	小中一貫教育の推進において、教員の連携に対する意識が以前より高まってきた。	分離型一貫教育では、物理的な制約の解消が難しい。小中の先生の交流については、さらにそれぞれのアイデアを生かして活用していく必要がある。	カリキュラムマネジメントの取組の4年目を踏み出す。	

自己評A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目4 保護者・地域との連携

本校の基本的な考え方 <small>(重点的な取組内容など)</small>	・プラン21に基づき、開かれた学校を目指す。 ・保護者・地域との信頼関係を深め、生徒の健全育成を目指す。					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
評価		評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明	
① 学校は、保護者・地域に対して積極的に関わったり情報発信したりしている。	A	・家庭訪問が役立つ部分もあった。	学校と保護者・地域の人々との関係は良好である。地域と連携したボランティア活動は盛んである。	地域行事に対しては、全教員での参加を試みるなど、地域との一体化が図れるように努めた。地域や学校の課題を共通認識できるようにはたらきかけている。	引き続き、学校を開く。学校便り、学校公開、地域人材の活用等で情報発信する。	
② 学校は、保護者・地域の力を十分に生かして教育を進めている。(保護者の行事支援の力、親子懇親会などPTA活動の力、地域の祭り、福栄会祭りへの参加など)	A	・生徒ボランティアの参加が増えた。喜ばれている。	定期的な清掃活動、高齢者福祉施設での活動、旧東海道宿場祭りへのボランティア、町会主催の運動会、連携小学校のサマースクールに生徒がアシスタントティーチャーとなり指導にあたる等の教育を推進している。	地域行事のボランティアなどに積極的に参加している。職場訪問、職業体験で地域の方々から働くことの大変さ、大切さを教えてもらっている。	ボランティア活動から地域との交流を進める。	
③ 学校の中に、授業など外部の人材等を生かした教育活動を行っている。	B	・日立ソリューションズの情報モラルの授業、卒業生のお話を聞く会。2学期には宿場通りの池上さんの講演が有意義であった。	地域の人材を活用した「情報モラル授業、卒業生のお話を聞く会、地域の人講演会等地域との結びつきも良い。	地域の街づくりを推進する市民科授業に地域の方を講師とした講演会を実施したり、	市民科の時間を工夫しやすければ、人材の活用も可能だが、時間調整が厳しい。工夫していく。	

自己評A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目5 環境整備・美化

本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員自ら校舎内外の整理整頓に努めるとともに、校舎・教室や教材・教具を大切にすることを育てる。 ・美しい環境づくりや清掃活動の大切さを生徒に学ばせる。 					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明	
① 学校は、常に、生徒の安全に配慮している。	A	・宿泊行事中の災害対応には配慮した。	美化コンクールを実施しているので、その際にふさわしい学校環境を考える機会をもっともっとよくなると思う。	休み時間の見回りなどを重視している。	防災については教師の意識をさらに高める。	
② 学校は、ふさわしい環境(掲示、清掃等)を整える努力をしている。	B	・教師の意識に差がある。	生徒の清掃活動だけでなく、教職員も清掃活動に参加している。	大掃除、拭き掃除の取組など美化活動には力を入れている。	粘り強く生徒指導する。ふき掃除は己を鍛えるためだけでなく、学校をきれいにする心であると修正し、環境の美化意識を高める。	
③ 学校の玄関、教室、廊下に対する生徒の美化意識が高まっている。	B	・教師の指導がなかなか生徒に定着しない。 ・美化コンクールは有効。	教室内外方にあるロッカーの整理整頓が十分でない。	日々の清掃活動にも力を入れ、美化コンクールの取組などを実施し、学校をきれいにしていこうとする取組を充実させている。	生徒に一層の美化意識を高めていく。	

自己評A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目6 いじめ防止に関する取組み

本校の基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間、家庭訪問、放課後の活動、給食時間等の巡回、相談を通していじめ等の早期発見、早期対応に努める。 ・市民科による心の教育に力を入れるなど、全活動を通じた温かな学級づくりを目指す。 ・11月には昨年同様、NHK100万人の行動宣言、いじめ0行動宣言活動を行う。 					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明	
① 生徒アンケートや、その他の取組みを具体的に実施して早期発見に努め、発見時は組織的な対応をしている。	A	・教師が敏感にアンテナを広げている。	休み時間、放課後の活動時、給食時間の巡回を実施し、いじめ等の早期発見、早期対応に努めている。	早期発見、早期対応が的確に実施できることに努め、組織的な対応がとれるようにしている。	早期発見、早期対応については、教師自らの意識と感性を磨き、同時に行動力を習得させたい。継続していく。	
② 未然防止のために、市民科を中心とした指導を展開している。	A	・11月に工夫を凝らした「いじめ0行動宣言」を実施。	市民科を中心に講話やDVD視聴を通して指導を通して心温かな学級づくりを実践している。	成果が見えづらいので地道に繰り返し継続指導する。	市民科で人間関係づくりや思いやり、道徳的要素を明確に計画し効果的に実践させる。継続していく。	
③ 日頃から、生徒が相談しやすい雰囲気はできている。いじめ0行動宣言の効果がみられる	A	・生徒主導で宣言を行ったので意識は高まった。	昨年同様NHK100万人の行動宣言を生徒主導で行い、いじめに関する生徒の問題意識を高めた効果が出ている。	学級活動において生徒で決めたクラス目標の達成に向け、日々活動している。いじめゼロ行動宣言の取組で作成した各自のポスターを廊下等に掲示するなどして意識の向上に努めている。	子どもたちが教師を触れ合う時間を日常の中で工夫し、確保する。	
④ いじめに関する生徒の情報は、全教職員で共有できている。	A	・生活指導部を中心に早期に共有できている。	週1回の生活指導部を中心にいじめに関する情報を全教職員で共有し、あらゆる場面で、人権尊重の精神に基づき、思いやりの心を育み、差別・暴力・いじめを許さない指導を全教職員の共通理解事項としている。	毎日の朝の会、毎週の生活指導部会等において生徒の人間関係などに十分に注意を払っている。	いじめ防止基本方針に基づき教員の意識を高める。	

自己評A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目7 学校独自の特色ある教育活動

本校の基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通じてリーダーシップ、フォロアーシップを育成する。 ・礼法指導、ふき掃除などの実践から心を育て、美化、奉仕の意識を高める。 ・ボランティア活動の参加意識を高める。
------------	---

評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明
① 運動会や音楽祭等の生徒主体の行事を通して、リーダーシップとフォロアーシップを育み、チームワークのすばらしさを学ばせている。	A	・運動会に続き音楽祭でも、生徒の主体的活動がたくさん見られた。 ・リーダーシップ、フォロアーシップの意識が高まったと期待したい。	運動会、音楽祭で生徒主体の学校行事を通して、リーダーシップとフォロアーシップを育み生徒主体の活動を多く見ることができた。	特別活動を通して、リーダーシップとフォロアーシップを学ばせている。	本校の特色なので、継続していく。
② 子どもたちに、地域行事への関わりをもたせ、地域に根ざしたボランティア活動を積極的に推進している。	A	・ボランティア年間活動予備調査の成果があり、参加者が増加している。 ・ボランティアの参加意識が高まった。	地域と連携したボランティア活動には積極的に参加している。	参加する人数が増加している。生徒の意識は確実に向上している。	年間を通じてボランティア希望調査を4月にとる。活動させながらボランティアの意義を学ぶ。継続していく。
③ 各学年で実施する宿泊行事については、段階を踏みながら生徒の主体性を伸ばし、成就感を高めさせている。	A	・7年ではリーダーシップの育成、8年移動教室では集団活動の規律を学ぶところに大きな成果があった。 ・9年では実行委員の成長と望ましい集団づくりの意識の高まりを感じた。	7年生ではリーダーシップの育成、8年生では集団活動の規律、9年生では望ましい集団作りの効果が確認された。	各学年で実施されていた宿泊行事は、来年度から7年の移動教室と9年の修学旅行となるが、行事の目的を意識してリーダーシップやフォロアーシップの育成を目指している。	教師が意図的に生徒活動の重点として、主体的に活動する生徒を育てる。
④ 本校の伝統的取り組みである「生徒による礼法指導」や「ふき掃除」を継承し、我慢する力と学校を美しくする心を身につけさせている。	A	・時と場をわきまえて生徒は実践するようになった。 ・目的をもったふき掃除となっていた。	「生徒による礼法指導」「全校ふき掃除」を通して、我慢する力、学校を美しくする心を身につけられるようになってきた。	日頃の行動から自然とできるように指導を充実させたい。	実践させていく。
⑤ 英語検定・漢字検定・数学検定・パソコン検定等の資格取得に向けたはたらきかけを行い、チャレンジ精神を養っている。	A	・意欲的に取り組んでいる。	資格取得に参加するすべての生徒が意欲的に取り組むことができた。	小学校時代の資格取得をもとにして、基本級はもとより、より上級を目指すように指導を重ねていく。	資格取得を学習意欲の向上につなげていく。

自己評A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

その他 お気付きの点を自由にお書きください。